

れきみん

資料館だより

No. III-39

相生市立歴史民俗資料館

〈資料紹介26〉古澤省三「近郷踏査録(1)」-失われた古墳を探る-

1917年(大正6)発行の学術雑誌に、「近郷踏査録(-)」と題した4頁ほどの報告が掲載されています(古澤 1917)。古澤省三による資料実地踏査の報告で、相生市域・上郡町域の古墳・陶棺・宝篋印塔を紹介しています。興味深いのは、現在の相生市陸・池之内付近に存在した古墳についての記述です。すでに紹介した狐塚古墳に関する伝聞記事(中濱 2022a・2022b)を除いて、以下に抜粋します(縦書きを横書きに、旧字体を新字体に改め、現在使われない用語も原文のまま引用)。

車塚 播磨国の西南端赤穂郡那波村字陸の北東池の内部に接する山麓の傾斜地に南北を稍西にふりて位置せり即ち郡の東南端にして、かの野見宿禰の遺跡ありと称せらるゝ揖保郡布施村字土師に接続せる村なり。塚は第一図に示せる如く原形を存せざるため、前方後円墳式のものか或いは瓢形のものか分明ならず、普通後円部を後とするならば、此墳は北向きに築きたるものにて、北は山地にて展望もよろしからざるに何故北向きにしたるものか、これは研究すべき所なり。而して土人の言を総合するには口縁部は数年前果樹園に開墾の際その頂上部より約二間の幅に小石を並べたる環状をなせる石畳ありしといふ。図中の◎はこれを示せるものなり。塚の周囲なる点々たる池は点線を以て想像せる如く、元は環渚なりしなるべく、又環渚と塚の間は約三十年前は塚と地続きにして、漸次に之を開墾して水田となし、残れる環渚の断片より水を引けり、而してこの環渚の内部にある水田を「大塚はだ」といふ、地は甚だしく傾斜せるが故に、最北の環渚と最南の環渚と高さにおいて余程の相違あり。北方前円部及び後円部の半ばは未だ松樹繁茂し居りて開墾せられず、前後何れも内部発掘の痕無し。附近には大塚、塚のまわり(玉の田井)等小古墳あれども大半毀たれて原形を止めず、唯発掘(鉄道敷設に方り土を取りしなり)に際し、土器類を出せしのみなりといふ。其他附近の水田中には、多々ありしなるべく、図面以外他に原形を止めざる古墳散在せり、尚ほ車塚より西南数町にして陸部落あり。…(以下略、狐塚古墳に関する記述が続く)…

(49) 號四第卷八第誌雜學古考

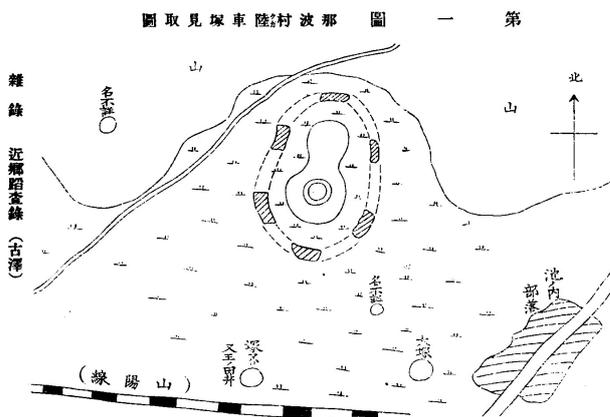


図1 「近郷踏査録(-)」掲載図 縮尺不同 古澤1917

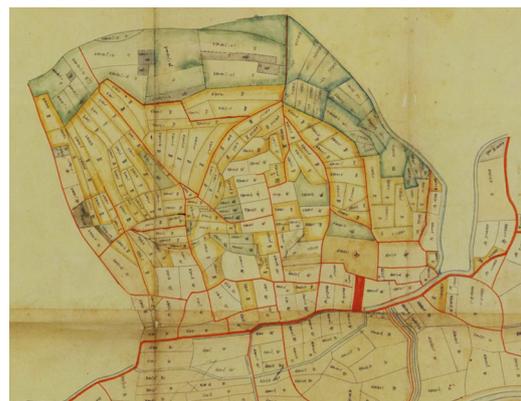


図2 赤穂郡池之内村全図(北部) 縮尺不同 1876年頃

古澤は、「車塚」という比較的大規模な前方後円墳が池之内に存在することを報じています。しかし、規模を示す計測値は記されていません。江戸後期の絵図や明治期の古地図[図2]には、前方後円墳の存在を示す記載はなく、古澤の環渚(周濠)についての報告

内容からしても、前方後円墳であることは疑わしい。区画整理前の航空写真〔写真1〕では、尾根上部が前方後円墳形に見えなくてもないですが、前方後円墳とするには無理があります。また、「車塚」という小字名もなく、古澤の誤認というべきでしょう。

ただ、池之内上ノ山古墳と呼ばれる古墳の痕跡が知られており⁽¹⁾、付近に古墳が存在していた可能性は高いと考えられます。

一方、古澤が記した周辺の古墳の大半は、写真1や明治期の古地図〔図3〕

・地形図〔図4〕で確認することができます。図1右の「大塚」「名不詳」は照合できませんが⁽²⁾、同図左の「名不詳」は現存する大塚ハザ古墳(径約32mの円墳5世紀後半)であることは疑いありません〔写真1左〕。また、「塚のまはり(塚マハリ)=玉の田井(玉ノ田井)」は現存しません、図3・図4でも描かれ、写真1でも見ることができます。

さらに、図3中央・図4左(那波駅=現在の相生駅の東北東)で2基の古墳と思しき表現が確認でき⁽³⁾、古澤の「其他附近の水田中には、多々ありしなるべく、図面以外他に原形を止めざる古墳散在せり」の記述に合致します。

古澤の報告は、古地図・古写真とともに、失われた古墳を究明・復元し地域の歴史を明らかにしていくうえで不可欠な基礎文献といえそうです。



写真1 陸東部・池之内北部航空写真 1961年

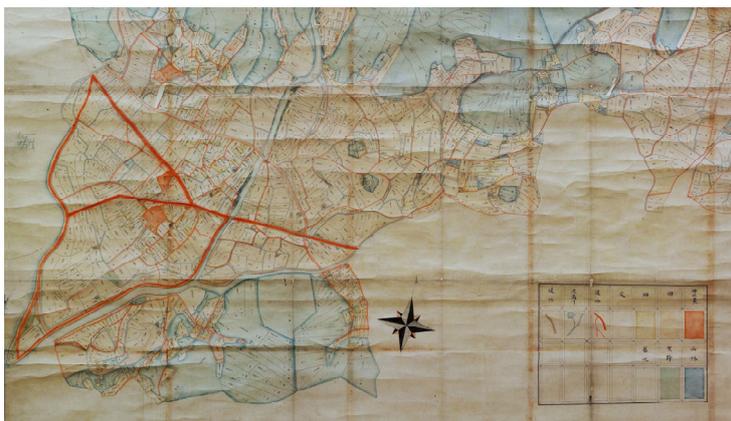


図3 赤穂郡陸村全図(南部) 縮尺不同 1876年頃

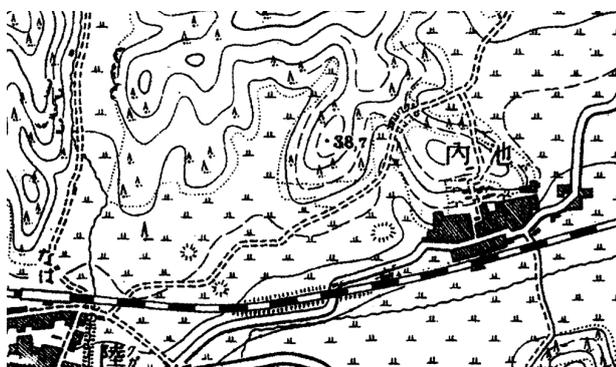


図4 陸東部・池之内西部の地形図 1:15000

大日本帝国陸地測量部1903年修正測図2万分の1地形図を拡大

〈註〉

- (1) 遺構は検出されていないが、円筒埴輪片・須恵器器台片が出土しており、5世紀後半ごろの古墳が存在していたと考えられている(上ノ山遺跡発掘調査団1983、中濱2022b)。
- (2) 註1に記した池之内上ノ山古墳に該当する可能性もある。
- (3) 上塚古墳・下塚古墳の名称が与えられている(鈴木豊彦ほか1984)。

〈参考文献〉

上ノ山遺跡発掘調査団1983『相生市池の内上ノ山古墳確認のためのレンチ調査結果の報告書』(相生市教育委員会)
 鈴木豊彦ほか1984『相生市遺跡分布地図及び地名表』(相生市教育委員会)
 中濱久喜2022a「陸・狐塚古墳の謎(その1)-古墳をめぐる経緯と概要-」『れきみん 資料館だより』III-34(相生市立歴史民俗資料館)
 中濱久喜2022b「宿禰塚古墳と相生市域の中期古墳」「狐塚古墳」『甲崎古墳測量調査報告書』(相生市教育委員会)
 古澤省三1917「近郷踏査録(-)」『考古学雑誌』第8巻第4号(日本考古学会)

* 橋本一彦氏から古地図・古写真について有益なご教示をいただきました。(中濱久喜)